

## 興国寺本堂

本堂（法堂）は興国寺の精神的な中心です。歴史ある仏陀である釈迦牟尼を祀っています。本堂は入母屋造りの二層屋根、装飾瓦、軒を支える複雑な木製の腕木が特徴的です。現在の建造物は 1797 年に建てられました。

室内には金色の本尊釈迦牟尼像をはじめとする数多くの仏像が安置されています。この像は蓮の台座に座っていて、仏教の守護者である四天王の像が両側に並んでいます。天井には本堂を守る龍の絵が描かれています。

本堂の裏手から瞑想ホール（禅堂）へ回廊が続いています。そこから開山者の堂まで第二回廊が続きます。開山者の堂には日本における禅宗の普及に尽力した僧侶心地覚心（1207 年～1298 年）が祀られています。彼は 13 世紀後半の大部分にわたって興国寺の住職を務めました。覚心は後醍醐天皇（在位 1318 年～1339 年）によって死後に与えられた称号である法燈円明国師（完全に目覚めた法灯の国師という意味）とも呼ばれています。開山者の堂には覚心の木造像が安置されており、禅師の墓所の上に建てられています。現在の建造物は 1823 年に建てられました。

瞑想ホールと開山者の堂は非公開で、本堂は寺院行事の時のみ公開されます。正面扉のすのこ越しに本堂内部を覗くことができ、境内を散策しながら 3 つの堂の外観を眺めることができます。